

2015 年度 研究所事業報告書

研究所名	国際言語文化研究所
研究所長名	高橋 秀寿

I. 研究成果の概要

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2015 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。

国際言語文化研究所では 2015 年度も紀要『立命館国際言語文化研究』を 4 号刊行しており、恒例となっている秋の「連続講座」では「70 年目の戦後史再考」を全体テーマとして、5 回にわたって「戦後 70 年—記憶の忘却とその責任」、「戦後京都—小説『金閣寺』とその時代」、「土地所有と民族問題—農地改革を事例に」、「地域からの戦後史再考—福島、水俣、沖縄. . .」、「敗戦国—「零時」からの 70 年」をそれぞれサブテーマとして登壇者とフロアーの間で活発な議論が交わされた。

重点プログラムでは、「環カリブ地域における言語横断的な文化／文学の研究」は二度の研究会を通して研究交流を広げただけではなく、研究対象の言語圏をポルトガル語やイタリア語、ポーランド語にも広げていくことに着手した。その成果は紀要と一般書において公表される予定である。

「バイリンガルの脳言語のイメージング研究」ではバイリンガルの小中高校生の調査を通してデータの収集に取り組んできた。これらのデータは 2016 年度に整理・分析に持ち込む予定である。

「カタストロフィと正義」では、2016 年 3 月に国際カンファレンス「移民／難民とカタストロフィ」が二日間にわたって開催され、海外からの研究者、学内外の国内の研究者、さらには本学の若手研究者も含めて報告とディスカッションが展開された。その記録は 2016 年度の紀要に掲載される予定である。

「ヴァナキュラー文化の多面的研究: 流体としてのことば、文化、地域」は 5 回の研究会を開催し、言葉の流れや人の移動などがもたらすダイナミックな変化をおもに言語学の立場から解明していった。11 月には駐日ジャマイカ大使を招いて、『世界の中のジャマイカ』をテーマとする講演会を開催し、百名を超える参加者を得た。

「ジェンダー研究会」は、5 月に「モニク・トゥルン氏朗読会と講演会」、7 月には「書評セッション 茶園敏美著『パンパンとはだれなのか——キャッチという占領期の性暴力と GI との親密性』」、11 月には朗読会「多和田葉子『献灯使』を読む」、3 月にはシンポジウム「戦争と性暴力の比較史に向けて」を催し、ジェンダー研究の拡大と深化に積極的に取り組んだ。

「風景のイメージとその人類学的諸相」は、7 回の研究会を組織しただけではなく、11 月にはベルリン自由大学から 4 名の研究者を招いて国際ワークショップ「風景への眼差しの交叉——東アジアと西ヨーロッパ」を開催して、研究の輪を今年度も国際的に広げた。

「メディアと日系人の生活研究会」は『立命館言語文化研究』(26 巻 4 号 2014 年度)に公表された研究成果を、当研究所の出版助成を得ることによって河原典史・日比嘉高編著『メディア—移民をつなぐ、移民がつなぐ—』、クロスカルチャー出版、2016 年の出版という成果にこぎつけることに成功した。

「トラベル・ライティング研究会」では、その研究の重要概念である「接触領域」の実装に迫る研究会活動が行われた。とくに 2016 年 3 月には二日にわたって国際シンポジウム「トラベルライティングという機構——他者への視線」を開催し、そこでは国内外の研究者だけではなく、本学の大学院生も登壇した。

以上のように今年度も国際言語文化研究所は盛んに研究会活動を行ったが、そこに分けて研究所をできうるかぎり動員することで、若手研究者の育成にも尽力した。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2016年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位	
研究所長・センター長	高橋秀寿	文学部	教授	
運営委員	井上 彰	先端総合学術研究科	准教授	
	ウェルズ恵子	文学部	教授	
	小川真和子	文学部	准教授	
	河原典史	文学部	教授	
	坂下史子	文学部	准教授	
	佐藤 涉	法学部	准教授	
	田浦秀幸	言語教育情報研究科	教授	
	土肥秀行	文学部	准教授	
	滝沢直宏	言語教育情報研究科	教授	
	内藤由直	文学部	准教授	
	中川成美	文学部	教授	
	仲間裕子	産業社会学部	教授	
	西林孝浩	文学部	准教授	
	西 成彦	先端総合学術研究科	教授	
	FOX Charles	文学部	教授	
	南川文里	国際関係学部	准教授	
吉田恭子	文学部	准教授		
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	Lachlan Jackson	法学部	准教授	
	千川哲生	文学部	准教授	
	崎山政毅	文学部	教授	
	平田 裕	言語教育情報研究科	教授	
	Paul Dumouchel	先端総合学術研究科	教授	
	安保寛尚	法学部	准教授	
	上野千鶴子	先端総合学術研究科	特別招聘教授	
	松本克美	法務研究科	教授	
	二宮周平	法	教授	
	坂本利子	産社	教授	
	丸山里美	産社	准教授	
	飯田未来	政策	准教授	
	竹中悠美	先端総合学術研究科	准教授	
デュニ・タヤンディエー	国際関係学部	准教授		
手 研 究 者 学 内 の 若	専門研究員・研究員	櫻井悟史	衣笠総合研究機構	専門研究員

補助研究員・リサーチアシスタント				
	学振特別研究員 (PD・RPD)	田中壮泰	日本学術振興会	特別研究員 PD
		武田悠希	日本学術振興会	特別研究員(PD)
	博士後期課程院生・一貫制博士課程 3 回生以上在籍院生	大野藍梨	先端総合学術研究科	一貫制6回生
		安孝淑	先端総合学術研究科	一貫制 7 回生
		安田智博	先端総合学術研究科	一貫制 7 回生
		山口真紀	先端総合学術研究科	一貫制 8 回生
		越智朝芳	先端総合学術研究科	一貫制 6 回生
		桐原尚之	先端総合学術研究科	一貫制 5 回生
		李 定恩	国際関係研究科	博士後期課程3回生
		古谷やす子	文学研究科	後期課程 3 回生
		山崎 遼	文学研究科	後期課程 1 回生
秋吉大輔		文学研究科	後期課程院生	
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	木下 昭	文学部	非常勤講師	
	佐藤 量	文学部	非常勤講師	
	宮下 敬志	文学部	非常勤講師	
	井上 達郎	社会学研究科	研究生	
	喬 婷	言語教育情報研究科	修士課程2回生	
	猪飼 悠記	言語教育情報研究科	修士課程2回生	
	ガラス ハビエラ	言語教育情報研究科	修士課程1回生	
	大澤 直人	文学研究科	研修生	
	海寶康臣	言語教育センター	嘱託講師	
	岡澤沙樹	文学研究科	研修生	
	二村洋輔	文学研究科	研修生	
	堀江有里	国際関係研究科	非常勤講師	
	金友子	言語教育センター	嘱託講師	
	池内靖子	産社	非常勤講師	
	金恵玉	経済学部ほか	非常勤講師	
	泉谷 瞬	文学部	非常勤講師	
	高見澤なごみ	先端総合研究科	博士前期課程	
	絹川恵梨花	社会学研究科	博士前期課程	
	林 宜臻	社会学研究科	博士前期課程	
	林 宜儒	社会学研究科	博士前期課程	
	三木順子	産業社会学部 京都繊維工芸大学工芸科学研究科	非常勤講師 准教授	
	住田翔子	産業社会学部	非常勤講師	

	山本真紗子	文学部・先端総合学術研究科	非常勤講師 先端総合学術研究科 研究指導助手
	鳥木圭太	文学部	非常勤講師
	池田敬悟	文学部	非常勤講師
	禰美智章	文学部	非常勤講師
客員協力研究員	和泉 真澄	同志社大学	教授
	坂口 満宏	京都女子大学	教授
	宮下和子	鹿屋体育大学 / 放送大学	名誉教授 / 教授
	西山淳子	和歌山大学	准教授
	加藤昌弘	名城大学	助教
	姫岡とし子	東京大学・人文社会系研究科	教授
	友田義行	信州大学教育学部	准教授
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	山辺弦	日本学術振興会	特別研究員 PD
	久野量一	東京外国語大学	教授
	大辻都	京都造形芸術大学	教授
	中村隆之	大東文化大学	専任講師
	杉浦清文	中京大学	専任講師
	佐久間寛	東京外国語大学 AA 研	助教
	寺尾智史	宮崎大学	准教授
	山田尚耀	関西学院大学大学院	修士課程1回生
	井狩幸男	大阪市立大学文学研究科	教授
	大澤真幸	麗澤大学	客員教授
	後藤玲子	一橋大学	教授
	牛革平	愛知大学	国際中国学究センター-ICCS 研究員
	長谷川 唯	京都府立大学	学振PD
	日比嘉高	名古屋大学	准教授
	半澤典子	京都女子大学	研究生
	辰巳 遼	京都外国語大学	博士後期課程5回生
	関口英里	同志社女子大学	教授
	湊 圭史	同志社女子大学	専任講師
	田中 寛	大東文化大学	教授
	岡野八代	同志社大学グローバル・スタディーズ研	教授
	秋林こずえ	同志社大学・グローバル・スタディーズ研	教授
	岩川ありさ	立教大学	非常勤講師
黒岩裕市	フェリス女学院大学	非常勤講師	

	梁仁實	岩手大学	准教授
	木村朗子	津田塾大学国際関係学部	教授
	仲間 絢	京都大学大学院人間・環境学研究科	博士後期課程
	平田剛志	京都国立近代美術館	客員研究員
	村田裕和	北海道教育大学教育学部	准教授
	Nadya Murray	独立研究者・翻訳家	
研究所・センター構成員 計 106 名 (うち学内の若手研究者 計 13 名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2016年3月31日時点)
また、別紙「研究所重点プロジェクト実績報告書様式」の研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	中村隆之	『エドゥアール・グリッサン 〈全・世界〉のヴィジョン』(岩波書店、2016) 1-225	単	2016年2月	岩波書店		1-225
2	杉浦清文	『土着と近代——グローバルの大洋を行く英語圏文学』梅正行、木村茂雄、武井暁子(編)、(音羽書房鶴見書店、2015) (「カリブ海地域における“新”植民地主義と土着／近代—ジャマイカ・キンケイドの『小さな場所』とステファニー・ブラック監督の映画『ジャマイカ楽園の真実』を再考する」)	共著	2015年9月	音羽書房鶴見書店		177-209
3	久野量一	『東欧の想像力』奥彩子・西成彦・沼野充義(編)、松籟社、2016(「ラテンアメリカ文学と東欧」)	共著	2016年3月	松籟社		304-309
4	久野量一	『コスタグアナ秘史』ファン・ガブリエル・バスケス著	訳	2016年1月	水声社		1-322
5	土肥秀行	『イタリア文化 55 のキーワード』和田忠彦編、ミネルヴァ書房、2015 (「ユダヤ系であること」他)	共著	2015年4月			144-147
6	寺尾智史	『書記伝統のなかの標準規範に関する歴史的東西比較』原聖・編、三元社、2016 (「ケチュア語とアイオレオ語の「言語名称の書記体系」—中南米における諸言語の規範化をゆがめるとば」)	共著	2015年12月			173-183
7	田浦秀幸	科学的トレーニングで英語力は伸ばせる!	単著	2016年1月	マイナビ新書	無し	全208頁
8	Paul Dumouchel	The Barren Sacrifice	単著	2015年11月	Michigan State University Press		383PP
9	Paul Dumouchel	Social Bonds as Freedom	友編著	2015年8月	Berghahn Books	Reiko Gotoh	303PP

10	Paul Dumouchel	Vivre avec les robots essai sur l'empathie artificielle	友編著	2016年2月	Seuil	Luisa Damiano	225PP
11	井上彰	社会科学における善と正義	共著	2015年5月	東京大学出版会	大瀧雅之・宇野重規・加藤晋(編者)	PP. 49-75
12	井上彰	正義	共著	2016年4月	ミネルヴァ書房	後藤玲子(編者)	PP. 157-167
13	河原典史	メディア—移民をつなぐ、移民がつなぐ—	共編著	2016年2月	クロスカルチャー出版	日比嘉高	PP. 1~413
14	ウェルズ恵子	アメリカを歌で知る	単著	2016年3月	祥伝社新書		
15	坂下史子	変容するアメリカの今	共著	2015年12月	大阪教育図書	町田哲司(監著)、柏原和子・松原陽子(編著)	pp. 113~127
16	安保寛尚	スペイン語大辞典	共著(分担執筆)	2015年9月	白水社	[監修]山田善朗、吉田秀太郎、中岡省治、東谷頼人	
17	田中寛	戦時期における日本語・日本語教育論の諸相	単著	2015年6月	ひつじ書房		
18	田中寛	科研報告書研究論文集：日タイ間における言語文化の接触と摩擦	単著	2016年1月	私家版		
19	田中寛	科研報告書原典史料集：戦時下における日タイ言語文化の接触と摩擦	単著	2016年2月	私家版		
20	二宮周平	家族法に関する司法積極主義の意義と限界『日本の最高裁判所へ判決と人・制度の考察』	単著	2015年6月	日本評論社	市川正人・大久保史郎・斎藤浩・渡辺千原編	PP.70-86
21	二宮周平	家族法～同性婚への道のりと課題『同性愛をめぐる歴史と法～尊厳としてのセクシュアリティ』	単著	2015年8月	明石書店	三成美保編	PP.122-47
22	梁仁實	帝国日本の小国民言説と『授業料』の映画化(『無名な書き手のエクリチュール—3.11後の視点から』)	単著	2015年12月	朝日出版社	中里まき子編	
23	松本克美	財産の安全配慮義務(『民事責任の法理』)	単著	2015年5月	成文堂	滝沢昌彦他編	PP.295-316
24	松本克美	時効法改革と民法典の現代化(『民主主義法学と研究者の使命』)	単著	2016年1月	日本評論社		PP. 357-37
25	坂本利子	ナディン・ゴードイマが描いた南アフリカ社会—人種、ジェンダー、セクシュアリティが交差する国家と家族のポリティクス	単著	2016年3月	第三書館		PP.1-296
26	Yuko Nakama	Aesthetics in Action	共著	2014年	International Yearbook of Aesthetics, vol. 18	Krystyna Wilkoszewska	pp.327-337
27	Junko Miki	『Le Sanctuaire D'Ise』	共著	2015年11月	MARDAGA	ed. Jean Sébastien CLUZEL/Masatsugu NISHIDA	pp.125-134

2. 論文

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	久野量一	「ブレルト・リコ、問い直される「正史」——ロサリオ・フェレとマヌエル・ラモス・オテロの作品から——」	単著	2016年2月	『立命館言語文化研究』27巻2・3合併号		177-187	無

2	中村隆之	「エドゥアール・グリッサンと『アコマ』(1)」	単著	2016年2月	『立命館言語文化研究』27巻2・3合併号		189-205	無
3	西 成彦	「カリブ文学試論—パピアメント語小説の位置」	単著	2016年2月	『立命館言語文化研究』27巻2・3合併号		207-215	無
4	寺尾智史	「サン・トメ島—ポリフォニック・クレオール」の輪郭」	単著	2016年2月	『立命館言語文化研究』27巻2・3合併号		217-231	無
5	佐久間寛	「セゼールとモース—脱植民地期の黒人知識人と人類学の対話」	単著	2016年2月	『立命館言語文化研究』27巻2・3合併号		233-245	無
6	西 成彦	「東欧系ユダヤ人についての断章」	単著	2016年3月	『れにくさ』(東京大学現代文芸論研究室)6号		40-61	無
7	久野量一	「ポストソ連時代のキューバ文学を読む—キューバはソ連をどう描いたか?」	単著	2016年3月	『れにくさ』(東京大学現代文芸論研究室)6号		129-139	無
8	田浦秀幸	バイリンガルの言語脳イメージング研究特集の概要	単著	2016年3月	立命館言語文化研究 第27巻2・3合併号		77-89	有
9	田浦秀幸	バイリンガルの言語脳イメージング研究:これまでの研究成果	単著	2016年3月	立命館言語文化研究 第27巻2・3合併号		91-116	有
10	田浦秀幸	第二言語ナラティブ時の脳賦活データによる言語臨界期説検証研究	単著	2016年3月	立命館言語文化研究 第27巻2・3合併号		117-125	有
11	田浦秀幸	バイリンガル・コードスイッチング脳賦活データによる臨界期仮説検証研究	単著	2016年3月	立命館言語文化研究 第27巻2・3合併号		127-131	有
12	田浦秀幸	大型fNIRS機(OMM-3000)と携帯型fNIRS機(LIGHTNIRS)との相関性研究	単著	2016年3月	立命館言語文化研究 第27巻2・3合併号		133-143	有
13	田浦秀幸	大型fNIRS機(OMM-3000)と簡易fNIRS機(PocketNIRS)との相関性研究	単著	2016年3月	立命館言語文化研究 第27巻2・3合併号		145-148	有
14	田浦秀幸	大型fNIRS機(OMM-3000)と簡易携帯型脳波計(IBVA)との相関性研究	単著	2016年3月	立命館言語文化研究 第27巻2・3合併号		149-174	有
15	Paul Dumouchel	Towards Human-Robot Affective Co-evolution Overcoming Oppositions in Constructing	共著	2015年11月	International Journal of Social Robotics, Vol. 7, Issue 1	Luisa Damiano, Hagen Lehmann,	PP.7~18	有

		Emotions and Empathy						
16	Paul Dumouchel	Reciprocity: Nuclear Risk and Responsibility	単著	2015年	ProtoSociology, Vol. 32		PP.166-183	有
17	Paul Dumouchel	La vie des robots et la nôtre	単著	2015年	Multitudes, n° 58		PP.107-113	無
18	Akira Inoue	Inequalities, Responsibility, and Rational Capacities: A Defence of Responsibility-Sensitive Egalitarianism	単著	2016年2月	Australian Journal of Political Science, Vol. 51, Issue 1		PP. 86-101	有
19	河原典史	1910年の悲劇はいかに報道されたか—カナダ・ロジャーズ峠の雪崩災害と日本人移民社会	単著	2016年2月	河原・日比編著『メディア—移民をつなぐ、移民がつなぐ—』		131-156	無
20	日比嘉高	〈代表する身体〉は何を背負うか—1932年のロサンゼルス・オリンピックと日本・米国・朝鮮の新聞報道	単著	2016年2月	河原・日比編著『メディア—移民をつなぐ、移民がつなぐ—』		217-244	無
21	和泉真澄	メディアとしての卒業アルバムヒラリバー—日系アメリカ人収容所における高校生活の表象分析	単著	2016年2月	河原・日比編著『メディア—移民をつなぐ、移民がつなぐ—』		13-38	無
22	木下 昭	軍政下日本語教育の記憶—元教員が描いたフィリピンとビルマ	単著	2016年2月	河原・日比編著『メディア—移民をつなぐ、移民がつなぐ—』		39-64	無
23	佐藤 量	同窓会誌のなかの満洲記憶	単著	2016年2月	河原・日比編著『メディア—移民をつなぐ、移民がつなぐ—』		97-104	無
24	半澤典子	ブラジル・フロエスタ地方における日本語新聞—1910年後半～1930年代を中心に	単著	2016年2月	河原・日比編著『メディア—移民をつなぐ、移民がつなぐ—』		105-130	無
25	辰巳 遼	アフリカ系アメリカ人の音楽文化の実践—ラップ・ミュージックとメディア・テクノロジー	単著	2016年2月	河原・日比編著『メディア—移民をつなぐ、移民がつなぐ—』		357-384	無
26	Keiko WELLS	Variations and Interpretations of the Japanese Religious Folk Ballad, Sansho-Dayu, or “Princess Anjyu and Prince Zushio” (1): The Narrative Tradition Kept by Visually Impaired Minstrels	単著	2015年9月	Journal of Ethnography and Folklore(New Series 巻 1-2号)		pp.5-27	有
27	Keiko WELLS	(Book Review) Japanese Singers of Tales: Ten Centuries of Performed Narrative by Tokita	単著	2015年11月	Folk Music Journal(11巻1号)		pp. 82-84	有
28	ウェルズ恵子	アメリカ奴隷制時代の歌を研究すること：黒人歌の創造性を見きわめるために	単著	2016年3月	黒人研究(85号)		pp.35-44	有

29	佐藤 涉	トニー・バーチの『血』 ー反復される暴力・植 民地主義の記憶ー	単著	2015 年 12 月	オーストラリア・ニュージ ーランド文学会、『南半球評論』 31 巻		pp.70-80	無
30	海寶康臣	書き言葉における文 頭の And	単著	2016年2月	立命館国際言語文化研究所、 『立命館言語文化研究』27 巻 2・3合併号		pp.17-26	無
31	Nimura, Yosuke	English in Malaysia and Malaysian Literature in English	単著	2016 年	<i>Language and Linguistics in Oceania. 8</i>		pp. 36-48	無
32	Nimura, Yosuke	Loneliness of the Malay(sian) Anglophone Writers in the 1960s	単著	2016 年	<i>International Journal of Applied Business and Economic Research. 14(2)</i>		pp. 1003- 1009	有
33	加藤昌弘	Minority Language Media in a Multicultural Country: A Case of BBC Alba in the Revival of Scottish Gaelic	単著	2015 年 10 月	日本ケルト学会『ケルティッ ク・フォーラム』18 号		pp. 51-52	有
34	田中寛	戦時下のタイにおけ る日本語教育の一断 面ー三木榮の『日暹会 話便覧』の構成につ いてー	単著	2015年7月	日タイ言語文化研究所、『日 タイ言語文化研究』第3号		pp. 35-50	有
35	田中寛	戦時下帝国日本の国 語・日本語政策の一 断面ー『教育週報』の 掲載記事を例にー	単著	2015年9月	大東文化大学東洋研究所、『東 洋研究』第196号		pp.29-68	無
36	田中寛	資料：戦時下におけ る日タイ言語文化の 接触と摩擦ー朝日新聞 掲 載 記 事 (1937 ~ 1945)を中心にー	単著	2016 年	大東文化大学、『大東文化大学 紀要』<人文科学>		pp.157-184	無
37	田中寛	「満洲」という歴史 体験と感情の記憶ー 「モラルの相克」から 考える遺産の超克ー	単著	2016年3月	日本植民地教育史研究会『植 民地教育史研究年報第18号 植民地教育支配とモラルの相 克』		pp. 82-102	有
38	二宮周平	家族～多様性の承認 と家族観の転換	単著	2015年9月	日本評論社、法の科学46号		PP.46-55	無
39	二宮周平	家族法における憲法 的価値の実現～家族 法改正と司法判断(1)	単著	2015年5月	日本加除出版、戸籍時報726 号		PP.2-15	無
40	二宮周平	家族法における憲法 的価値の実現～家族 法改正と司法判断(2)	単著	2015年7月	日本加除出版、戸籍時報728 号		PP.25-37	無
41	二宮周平	家族法における憲法 的価値の実現～家族 法改正と司法判断(3)	単著	2015年9月	日本加除出版、戸籍時報730 号		PP.2-15	無
42.	二宮周平	最大判平27・12・16 と憲法的価値の実現 (1)	単著	2016年2月	日本加除出版、戸籍時報736 号		PP.2-9	無
43	二宮周平	最大判平27・12・16 と憲法的価値の実現 (2)	単著	2016年3月	日本加除出版、戸籍時報737 号		PP.28-42	無
44	梁仁實	朝鮮戦争と『未亡人』 そして女「性」として の欲望	単著	2015 年 12 月	東京国立近代美術館、NFC ニ ューズレター			無
45	松本克美	ワークショップ・児童 期の性的虐待被害と その回復をめぐる法 と心理	共著	2015 年 10 月	法と心理学会、法と心理15 巻1号	村本邦子、安田裕 子、金成恩、後藤 弘子	PP.84-89	有
46	松本克美	時効論・損害論への法 心理学的アプローチ ー民事損害賠償請求	単著	2016年2月	立命館大学、人間科学研究33 号		PP.3-33	有

		における被害者支援のために						
47	松本克美	PTSD と損害賠償・時効問題	単著	2015年6月	의생명과학과 제 13 권		PP.131-144	無
48	松本克美	判批・児童期の性的虐待被害に起因する PTSD 等の発症に対する損害賠償請求権の時効・除斥期間—釧路 PTSD 等事件控訴審判決	単著	2015年9月	法律時報 87 卷 11 号		PP.165-168	無
49	松本克美	公務員個人の対外的不法行為責任免責論の批判的検討—修正的正義論及び法心理的分析をふまえて—	単著	2015 年 10 月	立命館大学、立命館法学 361 号		PP.765-794	無
50	松本克美	時効法改革案の解釈論的課題—権利行使の現実的期待可能性の配慮の観点から	単著	2016年3月	立命館大学、立命館法学 357・358 号		PP. 2143-2164	無
51	坂本利子	南アフリカの民主化過程における女性運動と市民社会(上)	単著	2015年6月	立命館大学、立命館産業社会論集 51 卷 1 号		PP. 255-271	無
52	坂本利子	南アフリカの民主化過程における女性運動と市民社会(下)	単著	2015年9月	立命館大学、立命館産業社会論集 51 卷 2 号		PP. 57-71	無
53	武田悠希	「写真画報」における押川春浪—家庭を対象とした雑誌編輯の実践—	単著	2016年3月	国文学研究資料館、近代文献調査研究論集		PP.75-85	無
54	Yuko Nakama	The aesthetics of nature in Japanese art and its historical development (中国語翻訳)	単著	2015年7月	Journal of Zhengzhou University、48/ 4		pp.98-101	無
55	竹中悠美	アブグレイブ写真のイコノロジー		2016年3月	生存学、生活書院、Vol.9.		pp.128-141	無
56	竹中悠美	FSA 写真再考—大恐慌期のドキュメンタリーにおける貧しき者への眼差し—	単著	2015 年 10 月	社会科学、同志社大学人文科学研究、査読有、第 45 卷第 3 号		pp. 1-24	有
57	三木順子(翻訳)	ゴットフリート・ベーム著「形象という問題」	単訳	2016年3月	形象論研究会誌『形象』1号	ゴットフリート・ベーム	pp. 10-29	無
58	Junko Miki	Anti-form Strategy in Architecture: Periodic Reconstruction at Ise Shrine	単著	2015 年 11 月	<i>Performing Cultures: Proceedings of the 19th International Congress of Aesthetics in Poland 2013, LIBRON, Krakow/Poland,</i>		pp. 63-72	有
59	住田翔子	風景化する廃墟—1980年代以降の日本における廃墟へのまなざしに関する一考察	単著	2016年3月	民族藝術学会、民族藝術民族藝術学会、32号		pp.129-137	有
60	住田翔子	Ruins and Nostalgia: A Study of the Japanese Modern Industrial Ruins' Boom in the 2000s	単著	2015 年 11 月	<i>International Congress of Aesthetics, The Proceedings of ICA 2013: Performing Cultures, Vol.3</i>		pp.73-80	有
61	仲間 絢	バンベルク大聖堂「君侯の門」彫刻群「神秘の結婚」による終末の	単著	2014年4月	美学会、美学、第 66 号 (1)		pp.113-124	有

		花嫁たちの救済					
--	--	---------	--	--	--	--	--

(3). 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	杉浦清文	「“Krik?” に応答すること——Edwidge Danticat の Krik? Krak! に関する一考察——」に関する一考察——	2015年4月26日	日本アメリカ文学会中部支部大会、名城大学	
2	SAKIYAMA Masaki	"Problemas acerca de la mobilizacion como terminacion de ser campesino(a)s en Chiapas (チアパスにおける男女貧農の離農としての移動にかんする諸問題)	2015年6月6日	メキシコ国立社会人類学高等調査研究センター南東局、サンクリストバル・デ・ラスカサス市	
3	中村隆之	「詩の国民性(民族性)とは何か?—脱植民地期のカリブ・アフリカ知識人における文学の問い」	2015年6月20日	『プレザンス・アフリケーヌ』研究 新たな政治=文化学のために」 第1回研究会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	
4	中村隆之	「都市とリズム—エドゥアール・グリッサンを手がかりに」、。	2015年9月26日	公開研究会「都市空間の未来像」Vol. 2「近代都市の境界：関係・混淆・錯綜」、大阪大学大学院国際公共政策研究科	
5	DOI Hideyuki	La fortuna di Dante in Giappone 「日本におけるダンテの受容」、Homaje a Dante Alighieri: primo convivio internazionale	2015年9月2日	「ダンテへのオマージュ」、ダンテ協会ブエノスアイレス支部	
6	SAKIYAMA Masaki	“M. N. Roy before the Foundation of the Partido Comunista de Mexico as the First External Branch of the Comintern”, presented at the Internationaal Instituut voor Sociale Geschiedenis, (「コミンテルン初の支部としてのメキシコ共産党創立以前の M. N. ローイ」)	2015年10月31日	オランダ王立社会史国際研究所、アムステルダム	
7	佐久間寛	「プレザンス・アフリケーヌ誌目録の構想と初期の概容(1955-1960年)」	2015年10月3日	『プレザンス・アフリケーヌ』研究—新たな政治=文化学のために」 第2回研究会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	
8	久野量一	「アナ・リディア・ベガ・セローバ：ハバナ〜モスクワ〜ハバナ」	2016年1月27日	東京外国語大学総合文化研究所研究会「シリーズ 文学の移動/移動の文学①」、東京外国語大学	
9	中村隆之	「エドゥアール・グリッサンと『アコマ』」	2016年3月5日	『プレザンス・アフリケーヌ』研究 新たな政治=文化学のために」 第3回研究会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	
10	大辻都	「民俗学から詩学へ——シモーヌ・シュヴァルツ=バルトの試み」	2016年3月6日	「環カリブ文化研究会」、東京外国語大学本郷サテライト	
11	SUGIURA Kiyofumi	"Tourism and Neocolonialism in the Trinidad and Tobago Carnival: A Critical Re-consideration of Vernacular Cosmopolitanism through Earl Lovelace's <i>The Dragon Can't Dance</i> "	2016年3月20日	国際シンポジウム"Mobility" and North American Literature/Culture、名古屋大学	
12	田浦秀幸	「日英バイリンガル園児のメタ認知力の発達と脳賦活」 「オーガナイズドセッション 03 バイリンガルと認知」	2015年9月	日本認知科学会第32回大会・千葉大学	井狩幸男・森聡美・赤木美香
13	Paul Dumouchel	Mimetic Reading of the rise of Nationalism and Nation States in Europe	2015年9月	Worlds of Violence 9th Pan-European Conference on International Relations, Giardini Naxos, Italy	
14	Paul Dumouchel	On "The Act of Killing"	2015年10月	Workshop on mimetic theory and films, University of Western	

				Sydney, Australia	
15	井上彰	ロールズの反照的均衡について	2015年9月	生存学研究センター公開セミナー・ロールズの方法論と生命倫理(於立命館大学)	
16	井上彰	デザートは甘くない? 「退屈哲学」の擁護	2016年1月	法理学研究会 2015年度1月例会(亀本洋『ロールズとデザートー現代正義論の一断面ー』成文堂、2015年、合評会)(於同志社大学)	
17	ウェルズ恵子	奴隷制時代の歌を研究すること:言語と音楽による expression, suppression と communication	2015年6月	黒人研究会第61回全国大会シンポジウム	
18	ウェルズ恵子	伝承歌を研究すること:アメリカ黒人霊歌にみる「表現」言説の壁と向き合いつつ	2015年10月	日本カレドニア学会 2015年度大会	
19	ウェルズ恵子	スコットランド民謡の越境性と土着性をめぐって	2015年10月	日本カレドニア学会 2015年度大会	
20	佐藤 渉	How to Represent Tasmania's Past	2015年5月	オーストラリア・ニュージーランド文学会 2015年春季研究大会シンポジウム "Tasmania and Its Position in Australian Literature", 日本女子大学目白キャンパス	有満保江、大場久恵、アナ・ジョンストン
21	坂下史子	Lynching Photographs in the NAACP's <i>Crisis</i>	2015年5月	American Literature Association Annual Meeting, 米国マサチューセッツ州ボストン市	
22	坂下史子	The Role of International Scholars in African American Studies: Studying and Teaching African American History from a Japanese Perspective	2015年9月	Association for the Study of African American Life and History Centennial Convention, 米国ジョージア州アトランタ市	
23	坂下史子	エメット・ティルの遺産ー60周年記念行事におけるアフリカ系アメリカ人の集会的記憶	2015年10月	黒人研究会例会、キャンパスプラザ京都	
24.	安保寛尚	チョテオをめぐるキューバの『文字の都市』の態度をめぐってーフェルナンド・オルティスとホルヘ・マニャッチのエッセイを中心にー	2015年9月	第174回東京スペイン語文学研究会、東京大学	
25.	安保寛尚	『現実の都市』はソンのリズムにのってーキューバ黒人芸術運動とニコラス・ギジェンー	2015年12月	ヴァナキュラー文化研究会、立命館大学	
26.	Nimura, Yosuke	Representing the Unrepresentable(s): An Analysis of Lee Kok Liang's Short Stories	2015年7月	36th National Conference of the Japanese Association for Asian Englishes, Chukyo University.	
27.	Nimura, Yosuke	Loneliness of the Malay(s)an Anglophone Writers in the 1960s	2015年12月	International Conference on "Business Economics, Social Science & Humanities" (BESSH-2015), Pearl International Hotel Kuala Lumpur.	
28.	海賓康臣	接続詞「そして」の談話内での機能	2016年3月	ヴァナキュラー文化研究会言語学講演会、立命館大学	
29.	宮下和子	映画『グローリー/明日への行進』に呼応するオバマ大統領セルマ・スピーチ	2015年10月	日本コミュニケーション学会 第22回九州支部大会、熊本学園大学水俣学現地研究センター(水俣市)	
30.	西山淳子	英語の談話における副詞句の解釈: now と参照時間	2016年3月	ヴァナキュラー文化研究会言語学講演会、立命館大学	
31.	加藤昌弘	「ケルト」から「スコットランド」へーなぜスコットランド国民党は海賊ラジオ放送局を必要としたのか?	2015年06月	人間学研究会、名城大学	
32.	田中寛	戦時下帝国日本の国語・日本語政策の一断面ー『教育週報』の掲載記事を例にー	2015年6月	植民地教育史研究会研究例会、相模女子大学	
33.	田中寛	戦時下帝国日本の国語・日本語政策の一断面	2015年7月	東洋研究所研究発表会、大東文化会館	
34.	田中寛	支那語会話から大東亜共栄圏用語へ	2015年7月	日タイ言語文化研究会第4回東京大会、大東文化会館	
35..	田中寛	戦時期におけるカナモジカイと『カナノヒカリ』にみる日本語進出論	2015年8月	日本のローマ字社、東京・駒込	

36.	田中寛	複合辞・形式語研究からみた辞書の見出し語について:日本語教育からのいくつかの提言	2015年11月	第48回語彙・辞書研究会、三省堂記念シンポジウム、東京・新宿NB会館
37.	田中寛	安藤浩のタイ学とタイ語学——草莽の地域言語学へ/から	2015年11月	科研成果発表会、大東文化会館
38.	田中寛	『語りつぐ戦争』にみる日本人の戦争記憶—「被害」のなかの「加害」意識—	2015年11月	戦争・対立から平和へ—歴史研究の現場からのメッセージ—国際シンポジウム(日本華文学術会議主催)、千葉商科大学
39.	二宮周平	日本における同性カップルの権利保障に向けた課題	2015年9月	日本ジェンダー学会・日本学術会議法学委員会LGBTI分科会主催・公開シンポジウム、セクシュアリティとジェンダー—性的指向の権利保障をめぐる、奈良女子大学
40.	二宮周平	法律上の父子関係と血縁—ジェンダー平等の視点と子の福祉の視点から	2015年12月	ジェンダー法学会第14回学術大会、シンポジウムI「近時の家族法判例とジェンダー」、日本大学
41.	梁仁實	文化資本とソウル—ソレマウルを中心に	2015年11月	独協大学シンポジウム「ソウルを読み読む」、獨協大学
42.	梁仁實	映画と明洞	2015年11月	『グローバル空間<明洞>を通してみる韓国文化の可能性』(韓国学中央研究院韓国文化深層研究共同研究プロジェクト)、梨花女子大学スクラント大学国際学部
43.	梁仁實	二つの青春と双曲線	2015年12月	東京国立近代美術館フィルムセンター
44.	梁仁實	植民地期朝鮮 映画のなかのダイグロニア—映画『授業料』を中心に	2015年12月	国際シンポジウム『無名な書き手のエクリチュール』、岩手大学
45.	松本克美	PTSD と損害賠償・時効問題	2015年5月	圓光大学法学専門大学院シンポジウム、韓国・益山市・圓光大学
46.	松本克美	児童期の性的虐待被害と〈時の壁〉—ドイツにおける相次ぐ法改正と日本への示唆	2015年6月	日本ドイツ学会第31回大会報告、東京大学
47.	松本克美	民法改正における時効法改革は何を変えるのか—その光と影	2015年7月	関西民科定例研究会、関西大学
48.	松本克美	PTSD and Negative Prescription: damages for sexual abuse in childhood	2015年10月	東アジア法心理学会第9回大会、立命館大学
49.	松本克美	児童期の性的虐待被害とその回復をめぐる法心理2	2015年10月	法と心理学会第16回大会、獨協大学
50.	松本克美	容貌変容の損害論の法心理学的再構築のために	2015年10月	法と心理学会第16回大会・ワークショップ「容貌変容と法心理—被害者支援のためのアプローチの検討」、獨協大学
51.	松本克美	児童期の性的虐待被害と時の壁	2015年12月	日本ジェンダー法学会第13回学術大会ワークショップ、日本大学
52.	松本克美	指定討論・フィールド講演4 司法と福祉	2016年2月	法と人間科学グランドシンポジウム・主催・文科省科研費・新学術領域「法と人間科学」、北海道大学
53.	坂本利子	South Africa's Transition to Democracy in Nadine Gordimer's No Time Like The Present	2015年6月	African Literature Association 41st Annual Conference
54.	坂本利子	Cross-cultural peer learning on campus: Lessons from Australia and Japan	2015年9月	European Association of International Education, Annual Conference
55.	坂本利子	Inter-cultural co-learning: Challenges in the Japanese context	2016年3月	東北大学国際共修プロジェクト研究会
56.	崎山政毅	Problemas acerca de la mobilizacion como 57.terminacion de ser campesino(a)s en Ch58.iapas	2015年6月	Centro de Investigaciones i Estudios Superiores en Antropologia Social
57.	崎山政毅	"M. N59.. Roy before the Foundation of the Partido Comunista de Mexico as the First External Branch of the Comintern	2015年10月	the Internationaal Instituut voor Sociale Geschiedenis
58.	崎山政毅	Criticizing 'Neue Lesen' of the Volume 1 of Capital: The Importance of the Main Body of the 'Warentheorie'in Ersten Auflage des	2015年11月	the office of Internationale Marx-Engels-Stiftung

		Kapital Band I (1867) , comparing with the Concerned Texts of Zweiten Auflage (1872) and French Edition (1872)			
59.	吉田恭子	野球ゲームに詩はあるか?—ロバート・クレーヴァー『ユニヴァーサル野球協会』に見るポエティック・ジャスティスとポエティック・ライセンス—	2016年2月	九州大学 P&P つばさプロジェクト 「リスクマネジメントから見る文学」	
60.	吉田恭子	The Asian Face of War, Gaining Perspectives from Both Sides: A Look at WWII, Vietnam, and Korea	2016年3月	Association of Writers and Writing Programs Annual Conference	
61.	吉田恭子	Barnstorming the Empire: The Philadelphia Royal Giants' Japan Tour of 1927	2015年8月	International Association of American Studies	
62..	黒岩裕市、泉谷瞬	On the Popularity of Sexual Politics: Post-feminism and Homonormativity	2015年6月	Cultural Typhoon 2015、関西学院大学	
63.	泉谷瞬	Ethics of Representation in Modern Japanese Literature	2015年6月	The Asian Studies Conference Japan、明治学院大学	
64.	武田悠希	『海底軍艦』における日出雄少年の意味—冒険小説及び少年向け読物の系譜における位置づけをめぐって—	2015年7月	日本文学協会第35回研究発表大会、奈良女子大学	
65.	Yuko Nakama	The Aesthetics of Japanese Art in Historical Development	2016年3月	ボローニャ大学	
66.	Yuko Nakama	Transformation and Foreignness: Japanese Ink Painting and Its Expanded Field	2015年11月	Beijing Forum (北京論壇)、北京大学	
67.	Yuko Nakama	Art and Nature: An Aesthetic View on Value	2015年6月	International Philosophical Forum on Values、北京師範大学	
68.	Yumi Takenaka	Historic Landscapes of two Spaces for the Edward Steichen Collections	2015年11月	国際共同ワークショップ「風景への眼差しの交叉 — ベルリンと京都から —」、立命館大学衣笠キャンパス、櫻谷文庫	
69.	竹中悠美	災害のランドスケープ2 —1930年代アメリカのドキュメンタリー・ブックについて—	2015年6月	第3回「風景のイメージとその人類学的諸相」研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
70.	竹中悠美	貧しき者への眼差しをめぐる一考察 —ニューディール期のドキュメンタリー写真の受容から—	2015年5月	同志社大学人文科学研究所 第18期第11研究例会、同志社大学今出川キャンパス	
71.	Shoko Sumida	Discovery of the Island Scape: The Reception of Paul Gauguin by Japanese Painters in the 1910s	2015年11月	<i>Crossing Gazes on the Landscape from Berlin and Kyoto</i> International joint workshop at Ritsumeikan University	
72.	Masako Yamamoto	“An Artist Colony in Kinugasa: “Modernization” of Painters’ Ways of Living”	2015年11月	立命館国際言語文化研究所・立命館大学先端総合学術研究科主催、国際共同ワークショップ「風景への眼差しの交叉—ベルリンと京都から—」立命館大学衣笠キャンパス、	
73.	Aya Nakama	Die Bamberger Domsulpturen: Ihr Bildprogram und das Hohelied	2016年2月	フリードリヒ・アレクサンダー大学美術史研究所コロキウム	
74.	中川成美	林芙美子のトラベルライティング	2016年2月	研究集会「林芙美子と旅」(立命館大学)	
75.	鳥木圭太	女性作家のみた(外地) —林芙美子と佐多稲子	2016年2月	研究集会「林芙美子と旅」(立命館大学)	
76.	中川成美	トラベルライティングというジャンル設定について	2016年3月	国際シンポジウム「トラベルライティングという機構——他者への視線」(立命館大学)	
77.	西成彦	満州からブラジルへ〜宇江木リカルの旅〜	2016年3月	国際シンポジウム「トラベルライティングという機構——他者への視線」(立命館大学)	

4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	日韓企画 2015「日韓の境界を越えて—帝国日本への対し方」	立命館大学 衣笠キャンパス 創思	2016年8月	14名	

		館 403/404 教室			
2	2015 年度国際言語文化研究所連続講座「70 年目の戦後史再考」	創思館カンファレンスルーム	2016 年 10 月	186 名	立命館大学国際平和ミュージアム
3	日韓企画 2015「日韓の境界を越えて—帝国日本への対し方」(第 4 回)	創思館カンファレンスルーム	2016 年 10 月	55 名	
4	2015 年度国際言語文化研究所連続講座プレ企画『戦後史再考』合評会	末川記念会館第 3 会議室	2016 年 6 月	10 名	
5	第 1 回環カリブ文化研究会	衣笠キャンパス	2016 年 1 月 10 日	10 名	
6	第 2 回環カリブ文化研究会	東京外国語大学本郷サテライト	2016 年 3 月 6 日	18 名	
7	12th International Conference “Migration and Catastrophes”	衣笠キャンパス	2016 年 3 月	40 名	主催：立命館大学先端総合学術研究科 共催：立命館大学国際言語文化研究所・立命館大学生存学研究中心
8	ヴァナキュラー文化研究会	ウェルズ恵子研究室	2015 年 9 月	5 名	
9	ヴァナキュラー文化研究会	創思館カンファレンスルーム	2015 年 11 月	116 名	立命館大学文学部 (コミュニケーション学域国際コミュニケーション専攻)
10	ヴァナキュラー文化研究会	学而館 2 階第 2 研究会室	2015 年 12 月	7 名	
11	ヴァナキュラー文化研究会	末川記念会館第 2 会議室	2016 年 3 月	10 名	
12	ヴァナキュラー文化研究会	ウェルズ恵子研究室	2016 年 3 月	5 名	
13	モニク・トゥルン氏朗読会と講演会	衣笠キャンパス	2015 年 5 月	80 名	国際言語文化研究所
14	書評セッション 茶園敏美著『パンパンとは誰なのか—キャッチという占領期の性暴力と GI との親密性』	衣笠キャンパス	2015 年 7 月	40 名	
15	多和田葉子『献灯使』を読む	衣笠キャンパス	2015 年 11 月	50 名	
16	戦争と性暴力の比較史に向けて	衣笠キャンパス	2016 年 3 月	130 名	国際言語文化研究所
17	国際共同ワークショップ「風景への眼差しの交叉 — ベルリンと京都から —」	衣笠キャンパス 櫻谷文庫	2015 年 11 月	50 名	ベルリン自由大学 美術史研究所
18	研究集会「林芙美子と旅」	衣笠キャンパス	2016 年 2 月	40 名	林芙美子の会
19	国際シンポジウム「トラベルライティングという機構——他者への視線」	衣笠キャンパス	2016 年 3 月	40 名	科研費基盤研究 (C)「海外紀行文の総合的研究」(研究代表者・中川成美)

6

5. その他研究活動 (報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	田浦秀幸	言語習得・喪失と脳賦活	台湾国立高雄第一科技大学外国学院応用日本語	2016 年 3 月 16 日
2	田浦秀幸	Language and brain	台湾国立高雄第一科技大学外国学院応用英語	2016 年 3 月 16 日
3	TAURA, Hideyuki	Brain-imaging versus conventional linguistic data in bilingual research	カナダ・ブリティッシュコロンビア大学	2016 年 2 月 3 日
4	河原典史	カナダの魚食文化—日本人移民との関わりから—	第 449 回国立民族学博物館友の会講演	2015 年 12 月 5 日
5	松本克美	高齢者の消費者被害—なぜ起こる、どうなくす	京都高齢者大学、長浜バイオ大学河原町学舎	2015 年 9 月
6	松本克美	特定個人の人格権保護を理由とした『図書館の自由』の制約原理と判断基準	立命館大学図書館サービス課研修、立命館大学	2015 年 9 月
7	松本克美	民法改正案における時効法改革	地籍問題研究会第 14 回定例研究会、東京・日本司法書士連合会会館	2015 年 11 月
8	松本克美	児童期の性的虐待被害からの回復支援について	科研費・新学術領域・法と人間科学、実務家研修、主婦会館	2016 年 3 月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
該当無し					

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	西成彦	比較植民地文学研究の新展開 —「語圏」概念の有効性の検証—	科研費基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	
2	中村隆之	20世紀フランス語圏カリブ海 文芸誌の調査研究	科研費若手研究(B)	2014年4月	2018年3月	
3	久野量一	宗主国の交代と植民地 —20世紀スペイン語圏カリブ地域にお ける共同体意識の研究	科研費基盤研究(C)	2014年4月	2018年3月	
4	寺尾智史	南部アフリカ・アンゴラ共和国における 言語政策の動向	科研費基盤研究(C)	2014年4月	2016年3月	
5	田浦秀幸	表象・アルファベットバイリンガルの脳 賦活様態のfNIRS研究	科研費基盤B	2013年4月	2017年3月	代表
6	田浦秀幸	日本人英語学習の英語賦活脳内メカニ ズム解明縦断・横断研究	科研費挑戦的萌芽	2013年4月	2016年3月	代表
7	田浦秀幸	中国の大学での英語教員養成課程の現地 縦断調査—日本への提言	科研費基盤C	2010年4月	2014年3月	分担
8	田浦秀幸	早期日英バイリンガルの14年間の縦断研 究のナラティブ分析研究	科研費基盤C	2011年4月	2014年3月	分担
9	田浦秀幸	幼児期の二言語使用が認知と脳にもたら す影響の解明	科研費基盤C	2015年4月	2020年3月	分担
10	河原典史	カナダ契約移民の輩出と渡航後の地域的 展開をめぐる歴史地理学的研究	基盤研究(C)	2015年4月	2019年3月	代表
11	ウェルズ恵 子	アメリカにおける都市移民の口承文化： 1880-1930年代の南欧東欧移民を中心に	基盤研究(C)	2014年4月	2018年3月	代表
12	西山淳子	英語の完了相と時の副詞句の情報構造に 関する研究	基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	代表
13	松本克美	児童期の性的虐待被害者のレジリエンス を支援する時効法改革の提言	新学術領域	2014年4月	2016年3月	代表
14	丸山里美	女性の貧困の実証研究に基づく女性福祉 の構想—セクシュアリティ概念の再定義 を通じて	若手(B)	2014年4月	2017年3月	代表
15	二宮周平	家事事件当事者の合意による解決と家事 調停・メディエーション機能の検証	基盤研究(B)	2014年4月	2017年3月	代表
16	秋林こずえ	「沖縄フェミニズム」と平和構築—軍事占 領と性暴力	基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	代表
17	岡野八代	身体フェミニズム理論の構築—性暴力批 判と女性の具体的なエンパワメントに向 けて	挑戦的萌芽研究	2014年4月	2017年3月	代表
18	姫岡とし子	近代ドイツのナショナリズムと女性の政 治化—植民地問題を中心として	基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	代表
19	梁仁實	韓国の「文化」テキストの越境とコリアン ディアスポラにおける変容	基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	代表
20	吉田恭子	19世紀から21世紀アメリカ文学に見る 書く行為と読む行為の相互作用に関する 研究	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
21	仲間裕子	近代芸術におけるディレクタントの学際 的研究	科研費・基盤研究(B)(研究代表者： 佐藤直樹)	2015年4月	2017年3月	分担
22	竹中悠美	ニューディール政策のFSA写真プロジェ クトにおける〈貧困〉と〈被災〉の表象	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表者
23	三木順子	「描く人(ホモ・ピクトル)」の倫理と冒 険：イメージ批判に基づく人間学的美学の 構想	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表者
24	山本真紗子	「近代美術史における京阪神の百貨店美術 部の活動の位置付とその役割」	日本学術振興会特別研究員奨励費	2013年4月	2016年3月	代表者
25	山本真紗子	「近代京都の美術・工芸に関する総合的研 究-制作・流通・鑑賞の視点から-」	科研費・基盤研究(B)(研究代表者： 並木誠士)	2015年4月	2020年3月	分担

26	山本真紗子	「19世紀末から20世紀初頭の欧米の「日本美術」愛好を支えたネットワーク」	科研費・若手研究(B)	2015年4月	2020年3月	代表者
----	-------	---------------------------------------	-------------	---------	---------	-----

8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	西成彦	環カリブ地域における「語圏」横断的な文化／文学の研究	2015年度立命館大学・国際言語文化研究所 研究所重点プログラム	2015年4月	2016年3月	代表
2	田浦秀幸	バイリンガルの言語脳イメージング研究	2015年度立命館大学・国際言語文化研究所 研究所重点プログラム	2015年4月	2016年3月	代表
3	田浦秀幸	日英バイリンガル園児のメタ言語発達段階解明研究	2015年度立命館大学研究推進プログラム(基盤研究)	2015年4月	2016年3月	代表
4	ウェルズ恵子	ヴァナキュラー文化の多面的研究： 流体としてのことば、文化、地域	国際言語文化研究所・研究所重点研究プログラム	2015年4月	2016年3月	代表
5	坂下史子	人種暴力の歴史にみるアメリカ黒人の記憶の政治学—エメット・ティル事件を例に	研究推進プログラム(科研費連動型)	2015年6月	2016年3月	代表
6	坂下史子	アメリカ人種研究の日本的展開	国際言語文化研究所 萌芽的プロジェクト研究助成プログラム	2015年9月	2016年3月	代表
7	坂下史子	現代イタリア文学、創造の最前線へ：詩、小説、ラップ	研究の国際推進化プログラム	2015年9月	2016年3月	分担

9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当無し								